

石段のここまで

お寺や神社の石段に洪水時の水位が記録されていることがあります。寺社は地域の中で比較的高い位置にあります。石段に達した水位の高さを知らせることで、人々に洪水への備えの大切さを伝えていきます。徳島県東みよし町と高知県四万十市の例をご紹介します。

■天橋立神社の石段（徳島県東みよし町）

昭和29年（1954）9月13日、台風12号（ジューン台風）により、吉野川上流域で記録的な豪雨となったため、岩津上流部の三好・美馬・麻植郡の各地区では家屋の全壊・流失・浸水が続出しました。三好町（現東みよし町）では、吉野川が暴れ川となり田畑が冠水して甚大な被害をもたらす大洪水のことを「島づけ」と呼び、早明浦ダムや池田ダムができるまでは10年に1回くらいありましたが、この時にも吉野川沿いは「島づけ」となりました。洪水の水位は昼間の天橋立（あまのはしだて）神社の石段12段目まで達したことが記録されています。＜三好町史編集委員会編「三好町史地域誌・民俗編」1996年及び徳島地方気象台編「徳島県自然災害誌」2017年など＞

※ジューン台風とジェーン台風が間違われることがあります。ジューン台風は昭和29年の台風12号で、ジェーン台風は昭和25年の台風28号です。



■太平寺の石段（高知県四万十市）

昭和10年（1935）8月28日、台風による風雨が激しくなり、中村町（現四万十市）では渡川（四万十川）と後川の水位が刻々上昇しました。28日午後2、3時頃には宮田小路、南京町、新町方面が浸水し、5、6時までには築地を残して全町が浸水しました。低所では水位は階上数尺にも及び、両川岸の百笑、不破、右山、角崎は大海のようでした。濁流は四万十川鉄橋橋台の頂上を洗い、後川堤防は余すところ3尺ほどの危機に瀕しました。中村町は、浸水というよりも沈没という言葉が当てはまる有様でした。最高水位は29日午前1時に渡川の具同で12.07m、後川の大用寺で10.31mに達しました。右山五月町の太平寺の石段14段目に最高水位標が設置されています。＜中村町編「中村町風水害史」1938年及び中村市史編纂委員会編「中村市史」1969年など＞

